

picotank

50MHz帯FMトランシーバー

取扱説明書



HX600T

付属品一覧

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1. 保証書 | 5. アンテナ |
| 2. 営業所一覧表 | 6. 愛用者カード |
| 3. 取扱説明書 | 7. ヘルトクリップ |
| 4. イヤホン
(1.2mダイナミック型) | 8. 防水キャップ |
| | 9. 回路図 |



STANDARD.

このたびは、50MHz 帯トランシーバー・ピコタンクをお買上げいただきまして誠にありがとうございます。

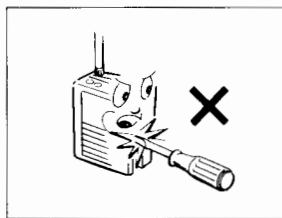
このピコタンクは、当社の厳重な品質管理および検査のもとに生産、出荷されておりますが、万一ご不審な点がありましたら、なるべくお早めにお買上げいただいた販売店あるいは弊社営業所、サービスセンターへお申し付けください。

特 徴

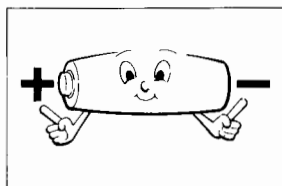
1. 50MHz 帯小電力 FM トランシーバーです。
 2. シンプレックスモード、デュプレックスモードそれぞれに 3 チャンネル用意されております。
 3. 使い方に応じて選べる 3 つのオペレーションモード
 - (1) シンプレックスモード / PTT (プレストーク) モード
通常のトランシーバーと同様に内臓マイクロホン、スピーカーおよび PTT スイッチによりオペレートできます。
 - (2) シンプレックス VOX (VOICE OPERATION CONTROL) モード
音声で送信と受信の切り換えができオプションのヘッドセットを使えば便利なハンドフリーオペレーションが楽しめます。
 - (3) フルデュプレックスモード
電話と同じように送信・受信が同時にできるので 1 対 1 の同時通話に便利です。デュプレックスモードはシンプレックスモードと別に 3 チャンネルの周波数が用意されています。
- 注意：フルデュプレックスモードで使用する場合は、送信・受信周波数の異なる A と B のペア使用となります。
4. 通話可能範囲は、周囲の建物等の状況により異なりますが、見通しの良い場所に於いて、
 - (1) シンプレックスモードでは約 600m から 900m
 - (2) デュプレックスモードでは約 150m から 200mの通話が可能です。

ご注意

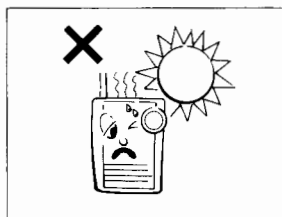
1. 内部の部品(コアーやトリマー等)は、電池を入れる部分以外を除いて手を触れないでください。



2. 本機に電池を入れるときは、電池の極性に十分注意してください。



3. 本機を保管するときは、高温、多湿またはほこりの多い場所は避けてください。



4. 本機は日常生活における防滴が施されていますが、水のなかなどには入れないでください。
尚、水滴が付いたときは、必ず水滴を乾いた布などで十分ふきとってください。

ご使用の前に

1. 図のように本体のバッテリーケースの蓋を外し、単3乾電池または、別売り品のニッケルカドミウムバッテリーパック CNB600を入れ、バッテリーケースの蓋をもとに戻します。

注意：乾電池または、ニッケルカドミウムバッテリーパックの極性を間違わないように入れてください。

- ① ロックボタンを回転させ、バッテリーケースの蓋を外します。
- ② 電池を入れます。
- ③ バッテリーケースの蓋をもとに戻し、ロックボタンを回転させバッテリーケースの蓋をロックします。(蓋の下部にあるツメを先に本体ケースに引っ掛けてから行

HX600T 定 格

●一般仕様

送・受信周波数	50MHz帯
シンプレックスモード	3チャンネル
デュプレックスモード	3チャンネル
送・受信方式	PTT(プレストーク)/VOX(ボイスオペレーション)/フルデュプレックス
電波型式	F 3
使用電圧	4.5V(SUM-3×3本)
空中線インピーダンス	50Ω
接地方式	マイナス接地
寸 法 (幅×高さ×奥行き)	61mm×80mm×36mm
重 量	200g

●受 信 部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	1st IF 10.695MHz 2nd IF 455KHz
受信感度(12dB SINAD)	
シンプレックスモード	- 5dB(* - 11dBμ)
デュプレックスモード	+ 12dB(* + 6dBμ)
スケルチ感度	
シンプレックスモード	- 7dB(* - 13dBμ)
デュプレックスモード	+ 10dB(* + 4dBμ)
オーディオ出力	150mW at 8Ω (* JAIA 測定法による)

●送 信 部

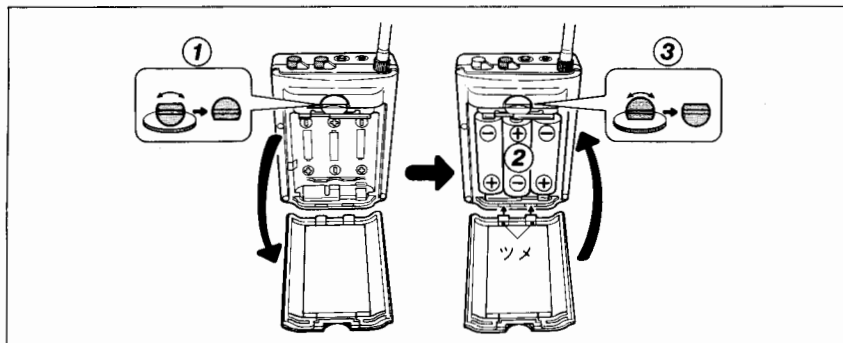
変調方式	リアクタンス変調
送信出力	
シンプレックスモード	約150mW
デュプレックスモード	約 40mW
最大周波数偏移	+5/-5KHz

ご使用の前に

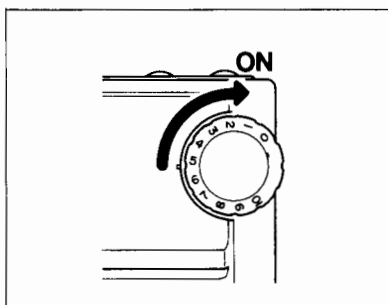
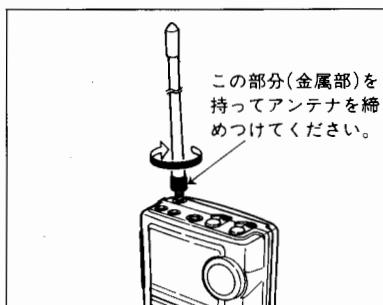
1. 図のように本体のバッテリーケースの蓋を外し、単3乾電池または、別売り品のニッケルカドミウムバッテリーパック CNB600を入れ、バッテリーケースの蓋をもとに戻します。

注意：乾電池または、ニッケルカドミウムバッテリーパックの極性を間違わないように入れてください。

- ① ロックボタンを回転させ、バッテリーケースの蓋を外します。
- ② 電池を入れます。
- ③ バッテリーケースの蓋をもとに戻し、ロックボタンを回転させバッテリーケースの蓋をロックします。(蓋の下部にあるツメを先に本体ケースに引っ掛けてから行ってください。

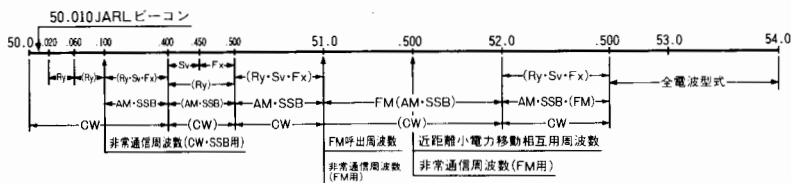


- ④ 付属のアンテナをつけます。(ねじこみタイプ)
- ⑤ 電源スイッチをONにして運用することができます。



これで準備完了です。

JARL 制定50MHz帯使用区分



- (注1) 50.000MHz～50.010MHzの周波数帯は、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
- (注2) 51.000MHz～52.000MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
- (注3) 52.000MHz～52.500MHzの周波数帯のFM電波は、海外局への応答に限り使用することができる。
- (注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、全電波型式の区分で行なう。

各部の名称と動作説明

① 電源スイッチ/音量調節ツマミ

HX600Tの電源のオン、オフと音量の調節をするツマミです。

② 運用モード切り換えスイッチ

シンプレックスモード、デュープレックスモードおよびVOXモードを切り換えるスイッチです。

③ 周波数切り換えスイッチ

運用周波数を切り換えるスイッチです。

シンプレックスモードおよびデュープレックスモードでそれぞれ3チャンネルの周波数が装備されています。

④ 付属アンテナ接続端子

付属されているフレキシブルアンテナ(CAT600)を取りつける端子です。

⑤ 外部アンテナ接続端子

別売り品のアンテナ付きヘッドセットCHP601用の端子です。またインピーダンス50Ωのアンテナを接続することもできます。

⑥ 外部マイクロホン接続端子

別売り品のアンテナ付きヘッドセットCHP601または、ヘッドセットCHP600用の端子です。必ず当社指定のヘッドセットをご使用ください。

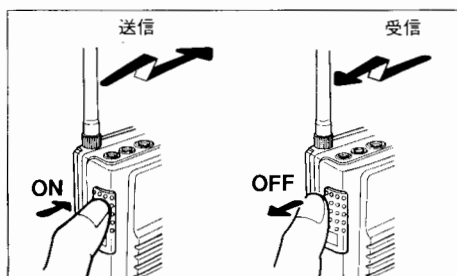
⑦ 外部スピーカー端子

付属されているイヤホンまたは別売り品のアンテナ付きヘッドセットCHP601および、ヘッドセットCHP600用の端子です。

尚、付属以外のイヤホンを使用する場合は、つぎのことをおまもりください。インピーダンスが8Ωまたは32Ω、最大入力レベルが30mW以上。

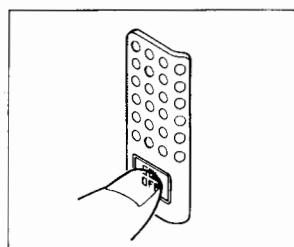
⑧ 送信・受信切り換えスイッチ (PTTスイッチ)

押すと送信になり、戻すと受信になります。



⑨ スケルチオフスイッチ

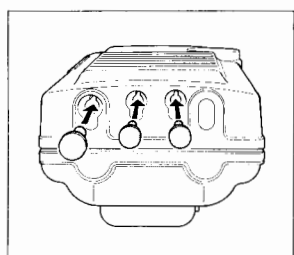
信号を受信していない時にこのボタンを押すとザーという音が聞こえますから、スピーカーからの音を音量調節ツマミにて適量の音量に調整してください。また、トランシーバーの動作確認や交信相手の信号が弱く音がとぎれる場合には、このボタンを押してご使用ください。



⑩ 防水キャップ収納孔

外部アンテナ等を使用するとき、外した防水キャップを収納しておく場所です。

別売り品のヘッドセットをご使用にならない時は、必ず防水キャップを各ジャックに入れておいてください。





⑪ 周波数表示マーク

本体裏にAまたはBのラベルが貼られています。AとBの相違点はデュプレックスモードにおける運用周波数が異なります。

ご注意：デュプレックスモードでご使用になる場合は、必ず異なるマークのものをお選びください。

ラベル表示	シンプレックスモード	デュプレックスモード
A----B	使用可	使用可
A----A	使用可	使用不可
B----B	使用可	使用不可

(1)HX600Tは、50MHz帯におけるJARL制定「アマチュア・バンド使用区分」内の周波数を使用しています。

(2)シンプレックス時の使用周波数は、51、52、53MHz帯の3波を使用しています。

(3)デュプレックス時の使用周波数は、51、53MHz帯の3波を使用しています。

Aマーク：送信周波数 53MHz帯 **Bマーク：**送信周波数 51MHz帯
 受信周波数 51MHz帯 受信周波数 53MHz帯

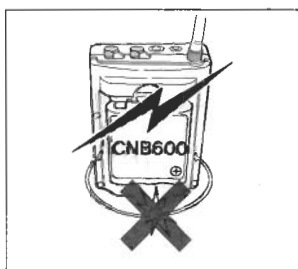
(HX600Tの運用周波数は、固定になっていますので周波数を変更することはできません。)

⑫ 充電端子

別売り品の、ニッケルカドミウムバッテリーパック CNB600を充電するための端子です。

但し、バラのニッケルカドミウムバッテリーは、充電できません。

ご注意：ニッケルカドミウムバッテリーパック CNB600を使用中は、端子と端子間を絶対接触させないでください。故障の原因になるおそれがあります。



⑬ 内蔵マイクロホン

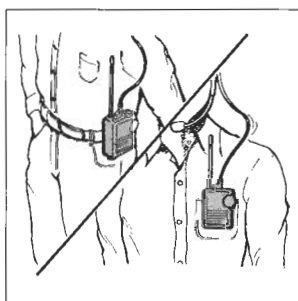
エレクトレットコンデンサーマイクロホンを使用しています。

⑭ ベルトクリップ

胸ポケットあるいは腰ベルトにはさんでご使用ください。

⑮ 内臓スピーカー

直径36mmインピーダンス8Ωのダイナミックスピーカーを使用しています。



1. デュープレックス運用

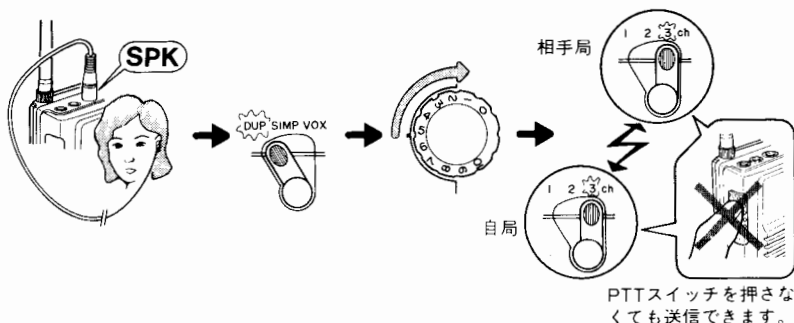
- (1) 付属されているイヤホンをSPK端子に差し込み、イヤホンを耳にいます。
- (2) モードスイッチをDUPに合わせます。
- (3) 電源スイッチ/音量調節ツマミを“5”ぐらいに合わせます。
- (4) 相手局のチャンネル番号と自局のチャンネル番号を合わせます。

これでデュープレックスモードでの運用ができます。

内蔵マイクロホンに向かって話をすると、PTTボタンを押さなくても送信されます。この時相手局が交信可能な範囲であれば自分の声がモニターできます。

アドバイス

デュープレックスモード運用時にもスケルチオフ機能がつかえます。



2. VOXモード運用

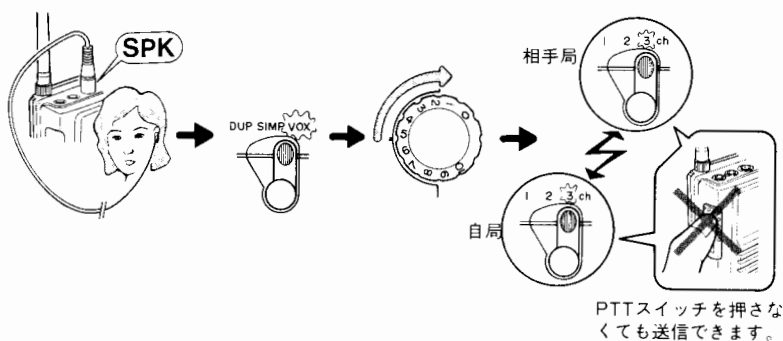
VOXモードは、音声の有無により自動的に送・受信を切り換える方法です。

- (1) 付属されているイヤホンをSPK端子に差し込み、イヤホンを耳にいます。
- (2) モードスイッチをVOXに合わせます。
- (3) 電源スイッチ/音量調節ツマミを“5”ぐらいに合わせます。
- (4) 相手局のチャンネル番号と自局のチャンネル番号を合わせます。

これでVOXモードでの運用ができます。

VOXモード運用時は、内蔵マイクロホンに向かって話をすると、PTTボタンを押さなくても送信されます。

この時自分の声がモニターできます。



3. PTTボタンによる運用(シンプレックスモード運用)

- (1) モードスイッチをSIMPに合わせます。
- (2) 電源スイッチ/音量調節ツマミを“5”ぐらいに合わせます。
- (3) 相手局のチャンネル番号と自局のチャンネル番号を合わせます。

これでシンプレックスモードでの運用ができます。

PTTボタンを押しながら(送信状態)内蔵マイクロホンに向かって話をしてください。

PTTボタンをもとに戻すと自動的に受信状態になります。

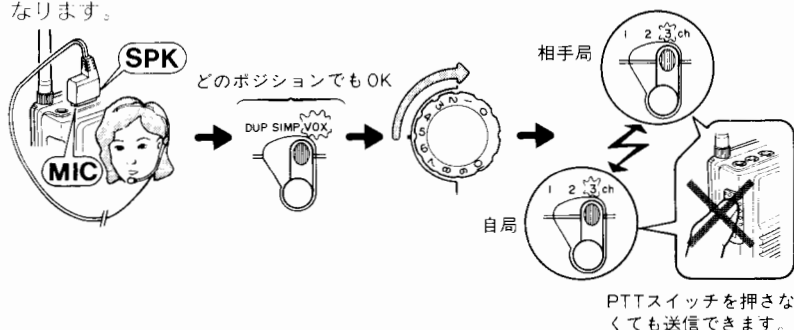
4. 別売りヘッドセット CHP600/CHP601を使用する場合

- (1) 別売りヘッドセット CHP600/CHP601を図のようにさし込み、ヘッドセットを頭につけます。ヘッドセットのマイク口ホンを口先2-3cmになるよう調整します。付属のイヤホンを、CHP600/CHP601のイヤホンジャックに入れます。
- (2) モードスイッチはDUP、SIMP、VOXのどのポジションでも運用できます。
- (3) 電源スイッチ/音量調節ツマミを“5”ぐらいに合わせます。
- (4) 相手局のチャンネル番号と自局のチャンネル番号を合わせます。

VOXモード運用時は、ヘッドセットのマイク口ホンに向かって話をする、PTTボタンを押さなくても送信され、音声が無くなると、自動的に受信状態になります。

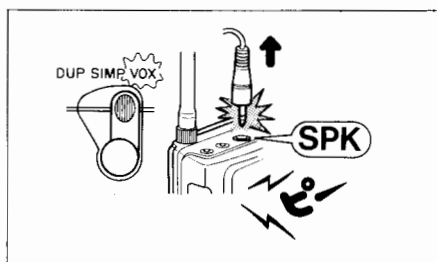
DUPモード運用時は、常時送信・受信状態となっていますので、マイクに向かって話してください。電話感覚でオペレーションができます。

SIMPモード運用時は、本体のPTTスイッチを押すと送信、戻すと受信状態になります。

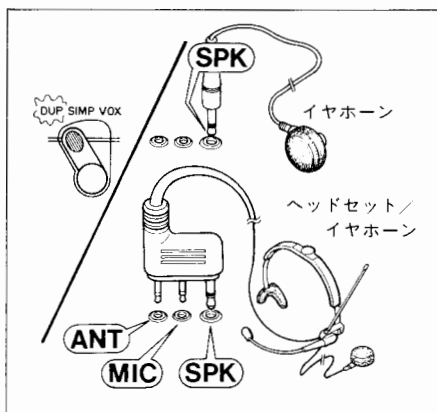


ご注意

- 1) VOXモード運用の場合は、ハウリング現象をおこしますので必ず付属のイヤホンまたは、別売りのヘッドセットをご使用ください。



- 2) デュプレックスモードで運用する時は、必ず付属のイヤホンまたは別売りのヘッドセットをご使用ください。



オプション豊富で楽しさ倍増

- ① マイク付きヘッドセット CHP600
- ② マイク・アンテナ付きヘッドセット CHP601
- ③ リチャージャブルバッテリーパック CNB600
- ④ デスクトップチャージャー CSA600
- ⑤ ヘルメット用クリップ CMB600
- ⑥ ソフトケース CLC600
- ⑦ ハードケース CLC601